

本會編纂刊行の神道書籍目錄に對する角田柳作氏の書評を讀む

本會研究所員 溝口 駒造

米國の宗教評論誌「The Review of Religion」一九三九年十一月號にコロンビヤ大學講師角田柳作氏が、本會刊行の「神道書籍目錄」の書評を執筆された。それは本紀要に轉載することにしたが、寔に丁寧懇切を極めたもので、外國人に同目錄を紹介して下さつたものとしては、これほど詳細なものは稀れである。本會が同目錄を編纂刊行した目的が、本邦人の神道研究の指南書たらしめんとするにあつたことは勿論であるが、一面又近來益々旺んになりつゝある外國人の神道研究の手引たらしめんと希圖したものであつた。故に角田氏の如く外國に在つて歐米人の日本文化研究を指導されつゝある人士が、本會の同目錄編纂刊行の趣旨を諒解されて、かゝる詳細にして理解ある書評を執筆せられたことは、寔にその人を得たもので、同目錄を歐米人に知らしめ活用せしめる爲に偉大な効果があつたであらうことを想像して深く感謝する次第である。

然し乍ら、角田氏の書評中、本書が佛教家の手に成れる著述にして神道關係の書目に一二遺漏がある點を指摘された事については、本書の編纂方針と角田氏の指摘された所とその間多少見解の相違があることを申さねばならぬ。例へ

ば、圓珍の『行歷抄』が採録してありながら、圓仁の『入唐求法巡禮行記』の洩れてをることを指摘してをられるが、『行歷抄』は末尾に少々ながら比叡神社のことが書いてあるけれども『入唐求法巡禮行記』には、歸朝後住吉大社等に報賽のことが一寸書いてある丈で比叡神社のことは無く、日吉神道の發達に關する資料は同書では得られない。住吉大社の記事も報賽のこと以外は別段重要なものとも思はれない。そこで神道書籍目録としては、『行歷抄』の方を重んじ、『入唐求法巡禮行記』は割愛した次第である。又親鸞聖人の『教行信證文類』は我が國宗教發達史上重要なものであることは今更論する迄もないところであるが、同書は主として佛典によつて彌陀一佛の信すべきを述べたもので、本邦の神祇關係についてはそれ程觸れてゐない。それ故、同書は割愛して『諸神本懷集』を挙げ、眞宗の神祇觀を、それに代表せしめたのである。また妙葩の編『夢應國師年譜』も神祇に關することは極めて僅しいので割愛した次第である。然しながら、本會の目録は勿論完璧といふべきものではなく、今後機會あらば、増訂を試みたいと思つてをるものであるから、幸ひにその機會を惠まれる際は角田氏の指摘された書目なども考慮に入れて取捨選擇し増訂する考である。簡單ながら角田氏の好意を深謝すると共に右氏と採録書目に關し、見解の相違あることを一言し、こゝに終に臨んで、再び角田君の御紹介御批判を多謝するものである。

迎年祈世

酒井尊農居士

あらたまの年の始めに祈るなり

稻つか高き秋の稔りを